



善正寺だより

掲示板法話

母の心を憶うとき

仏の利他心に会う仏縁となる

五月晴れの空に、鯉のぼりが似合う季節です。最近では少子化のせいなのか、鯉のぼりを見かけることが少なくなっています。地方創生が叫ばれる今日、子育てしやすい環境づくりが国全体の課題です。若い夫婦が子供を生み、育てやすい環境とは何でしょうか？

首都圏には地方から沢山の若者が流入していますが、最も子育てしやすい環境です。その理由として、物価の高さ、居住環境の狭さ、通勤時間の長さ等があります。それだけではない、子供を預ける保育施設の建設に対して、「騒音がうるさい」という近隣住民の反対で設置認可が遅れたり、設置困難なケースが続出しているのです。

子育て環境を良くして、出生率を上げなければいけない、という流れに反するこのエゴイズムを皆さん、どう考えるのか？恐らく「自分には関係ない」、「他人事さ！」という狭い利己主義が反対論の正体なのでしょう。

「子供怒るな、来た道だ。年寄り嫌いな、行く道だ」という標語があります。子供の姿をみて、自分自身が生まれ、

〒:512-0902
三重県四日市市
小杉町1014
浄土真宗
本願寺派
善正寺
TEL:0593-31-1670
FAX:0593-32-0733



育てられたご恩に気づけば、騒音としか思えぬ環境に対して、少しは寛容になれるでしょう。若い衰えていく人々の姿を「明日は我が身」と二重映しにすれば、老いを受け容れる、しなやかな自覚も芽生えることでしょう。

一年の間に二度も骨折して、息子に手厳しく怒られた母親の嘆きを聞きました。私も同じ立場の息子ならば、母親にひどい言葉を発していたかもしれないと慙愧の念を覚えます。高齢の女性が骨折しやすいのは、骨粗しょう症といい、骨の空洞化が進んでいる表れです。でも、「赤ん坊の頃、母親に骨身を削って母乳を飲ませてもらったおかげで大きくなったのだ」と思えば、ご苦労をかけた母親を手ひどい言葉で叱責するのは大変な親不孝者と恥ずかしくなるはず。

母乳を飲む赤ん坊を見つめる母の笑顔は観音さま(慈悲の菩薩)のようだ、と言った人がいます。実際、母親の授乳を促すオキシトシンというホルモンは、「利他ホルモン」と言われます。母の心を想うとき、「ご恩知ら

ず」の我が身を自覚させられ、仏さまの(利他の)心に会う仏縁が開かれるのではないのでしょうか。
子の母をおもふがごとくにて
衆生仏を憶すれば
現前当来とほからず
如来を拝見うたがわず(浄土和讃)
幼くして母に死別された親鸞さまですが、幼子が母親を慕う気持ち思い起こせば、必ず如来さま(の心)に会う日が到来するのだ、と詠まれています。「子育てしやすい環境」とは、老いも若きも真に安心できる環境です。子供の声が聞こえることを喜び、未来を託する子育てを支え合う環境づくりに精一杯努めたいものです。

☆行事ご案内☆

◇『門信徒総会』&『公開法座』

5月31日(日)午前10時:総会 (昼食用意)

午後1時 『公開法座』一般のご参詣大歓迎!

講師:高沢正文師(奈良・宇陀) 初めのご縁です

公開法座終了後、新旧行事さんの引継ぎの『打ち上げ会』

◇キッズサンガ 5/2 (土) 午後4時よりお経ゲーム。

鐘つきは毎夕5時、年中無休、お友達を誘って来てね

◇三重組コーラス 5/7 (木) 午後西勝寺様で練習、

5/20 (水) 午後三重組仏婦総会出演 (光念寺様で)

善正寺ホームページ「三重 善正寺」で検索。1年分の寺報が閲覧。毎日更新のブログ「住職と坊守のつれづれ日記」が大好評。寺の日常を公開、開設6年9か月で17万2千訪問、一日平均100程、コメント、悩み相談、大歓迎!即返信します。

◇『一縁会テレホン法話』059・354・1454へ電話

4/20から26まで坊守が一週間担当。3分間で聞ける法話

※親鸞聖人750回大遠忌法要平成28年5月15日(日)午後ご法要までいよいよ1年に迫りました。ご協力よろしく!

※お稚児さん大募集!参加費5千円、詳細お申込みは寺まで生涯のよき思い出、仏縁です。お誘い合わせてご参加下さい!

◇三重組十三日講:5月13日持光寺様、講師:朝戸臣統師

◇新納骨堂:後継者のない方、お墓でお困りの方ご相談下さい

今月の写真アラカルト



夕方の境内は地域の学童保育所のようににぎわい!



メジロのお墓に合掌する子供たち 納骨堂・本堂にお参り

坊守スケッチ

比べるひとの愚かさ



卒業して50年も経つて中学校の同窓会があった。久しぶりに会った同窓生に、面影の残る人もいれば、見違える人もいた。皆それぞれに自分の歩んだ人生を表す顔つきだった。私が寺に嫁いだことを知った人は、一様に驚いた。中学時代の私は、それほど寺に相應しくない人間だったのだろうか？寺院生活早40年、坊守時代の方がはるかに長くなった。

「何故寺に嫁いだの？窮屈じゃない？」と尋ねられた。私自身は寺に嫁いだことを後悔していない。自分自身が選んだ道と覚悟している。もし寺に嫁がなかったら、おそらく仏法を聞く機会に恵まれなかったのではあるまいか？自由気ままに自分勝手な生活を送り、気に入った人とだけ付き合う。狭い人間関係の中で憎しみ合い、傷つけ合う。「空しい。寂しい。こんな苦じやなかった。不幸の原因は他人の所為だ」と、不満や愚痴を周囲にぶつけていたのではないだろうか？

確かに寺の生活は自由が少ない。でも坊守になったおかげで、年代を超え多様な価値観を持った人との沢山の出会いがあった。それも生死に関わる深刻な問題を抱えた人々との出会い。「あなたは他人の話を聞いて、自分以外の人の何倍もの人生を生かさせてもらっているのね」と評した人がい

る。おそらく私はその人たちから遅く生き抜く術を教わった。坊守の生活は、地味で肩書も名誉もない。しかし共に語り合い喜び合う仲間がいる。

他人と比べて自分の人生を嘆くことほど愚かなことはない。他人と比較すれば、羨望や、優越感、怨念、慢心などが起こり、自分で自分を苦しめる。「他人は他人。自分は自分」という確固とした信念を持ち、与えられた境遇をありのまま受け入れ、精一杯生きることが仏様の願いではないだろうか？また自分自身の過去と現在を比較して嘆くのも空しい。今ここに生かされた現実を正しく見つめて、一日一日精進を重ねることも大事だと思う。



お参りの人々をお待ち受け

寄稿

駅僕悦

☆父母の 五十回忌よ 子は五人

よくぞ揃いて 今日を迎えし

※子の平均年齢七十八歳、合計年齢三百九十歳 ああ有難きかな！

歌 妙水

☆息止めて 踏ん張って撞く

除夜の鐘

☆突き刺さる 星の数々 冬銀河

☆憩ふ鴨 浮いて湖 静かなり

☆若院夫婦の「育自な毎日」その7

新年度がスタートしました。進級、進学で新しい環境へ踏み出たお子さんやお孫さんもいるでしょう。わが家の長男も4月から幼稚園へ通い始めました。しかし3月生まれなので、身の回りやトイレのことなど多々心配は尽きません。先日一日入園体験がありました。朝から制服を着たくないと言いき、これから先が思いやられます。それでもなんとか登園し、園庭に整列した時です。年中・年長さんは先生の号令に合わせて綺麗に並んでいます。年少さんはポカーンと見とれているだけです。一年間教育されるとこんなにも差が出るかと驚き長男の一年後の姿に重ねました。

また、保護者が園庭で個々に説明を受けている間、長男は園庭で遊んでいたのですが、いざ帰ろうとすると姿が見当たりません。しばらくして教室を覗いてみると、いました！お気に入りのやぶさの靴が上がり口に脱いであるではありませんか！様子を見に行くと、滑り台のところで仲良くなった男の子について、教室内で先生からちゃっかりお茶を御馳走になっていました。持ち前の人懐っこさを発揮していたのです。子どもは素晴らしい適応力の持ち主です。心配しなくても回りに合わせて自分の立ち位置を学習していくのだなあと、少しほっとしました。しかしまだまだ始まったばかり。様々な事が待ち受けているでしょう。少しでも楽しく園生活を送れるように、甘えん坊の長男をサポートしたいと思います。



カンパありがとう

荒木様、匿名様よりお志、切手等を頂戴しました。

ホットニュース

☆本堂大屋根両側面の三角格子板、破風、懸魚工事が始まりました。5月末の『公開法座』までには完成します。
☆一縁会テレホン法話。(4/20) 4/26) 坊守が担当します。(10059・354・1454) お電話下さい。一週間交替講師で三分間の法話

赤稚児さん大募集!

平成28年5月15日親鸞聖人750回法要(1年後)の御稚児さん大募集中! 参加費5千円。まだ先のことか? 出足がイマイチ。ご協力下さい。

お悔やみ申し上げます

★伊藤達司様(三月一五日亡、六六歳)
★山口精機(三月三〇日亡、九三歳)

☆ 編集子より ☆

「善正寺だより」第257号をお届けします。◇五月五日が子供の日、十日が今年母の日、二十一日は親鸞聖人ご誕生の日。子供の健やかな成長を願わぬ人はないがこの世は想定外の連続。困難から逃げずに向き合い、しなやかに生きる智慧が欠かせない。◇声を失ったミュージシャン・つくしが母校の入学式で「自分だからできること、自分にしかできないことをやりたい」との声なきメッセージは尊い。本山で仏前結婚式を挙げた人らしい。合掌。

風薫る若葉の季節となりました。来年5月15日の親鸞
聖人七五〇回大遠忌法要まであと一年と迫りました。三年か
けて準備を進め、今も本堂や境内の整備工事は続中
です。現在は本堂の大屋根両側面の三角形格子板破
風、懸魚工事をしています。屋根瓦が新しくなったのに
本堂内部から斜めに仰ぐと空が見えました。これは一大
事！百年以上の風雪に耐えて、紙のように薄くなり融
わるとボロボロの状態でした。内陣天井をせっかく新調し
ても元の木阿弥。思いきって修繕するにしました。ご法
要まで残された一年間は建物の修繕よりも法要の中身
の充実にかを注ぎたいと思います。それには皆様の協力
が不可欠です。稚児募集も早くから始めましたが、早す
ぎて反応がイマイチ。どうか孫さんや知り合いの子どもさんにも本々
お誘い下さいませ。十四年前の蓮如上人五百回忌法要（H
13年4月1日）と比べて機運が高まりません。私達も歳を
とったせいでもありますが、全体的に少子高齢化や深刻な
寺離れが原因と思われ、しや私達のご先祖は
幾多の戦争や災害を乗り越えて、数百年の歴史を経
て、この私に仏法を伝えて下さいました。私の時代で絶やし
ては申し訳がありません。私達のご報告と受け
止めて粉骨砕身努めさせて頂きます。どうか皆様の
のご支援よろしくお願い申し上げます。5月31日（日）は午前
法会、午後公開法座です。皆様のご参詣心よりお
待ち申し上げます。

合掌 善正寺坊守拝
平成二十七年 五月